

週末は「ファーマー」気分で・・・

第1回 ちゃつきり娘養成講座が行われました

*ファーマー・・・農家・百姓のことです



4月29日、農林業センター（地名）を会場に「第1回ちゃつきり娘養成講座」が行われました。この講座は町外の独身女性を対象に、「農村の営み」を1年通じて体験し、川根本町の魅力を感じてもらおうと町が初めて企画したもので、当日は応募した女性16人が参加。杉山町長の歓迎のあいさつのあと、畑に移動して、自分の名札をたてた畑に野菜の苗を植えるなどの農業体験を行いました。

当日は、地元の農家の方たち（援農隊とサポーター）が応援に駆けつけ、慣れない手つきの参加者たちと一緒に農作業を楽しみました。

初めての農作業に戸惑う参加者たちばかりです。それでも、援農隊の熱心な応援と手ほどきにより、畑一面に野菜の苗が並びました。



講座に参加された静岡市の女性は、「基本的に土をいじるのが好き。農業を肌で感じて、自給自足ができることに憧れます。最近テレビでよく放送する農村の生活体験の番組を観て、ああいうのが理想だなあとすごく思う。この町は、あれに近い感じがする良い所ですね」とのこと。

近くに馬もいるんだよ。と、援農隊の人が言う。「乗ってみたい！」と言っていました。

浜松市の女性は、「去年、屋久島で雄大な自然とカヌーを体験して、その素晴らしさにいっぺんにはまってしまいました。この講座の中でも、カヌーとかハイキングとか体験できると聞いたので応募したんです。自然とふれ合えることが好きなんですよね」

そのとき、地名の駅の方から大きな汽笛の音が。



「SLだ！」と言う声とともに、みなさん振り向いたり驚いたり。地元にいると何でもないことも、町外の人から見ればすごく珍しことなんだと改めて感じる光景でした。

援農隊として熱心に鍬を振るっていた土屋鉄郎さん（尾呂久保）は、「最初はカボチャの苗を見てスイカだ！と言っているのを見て、大丈夫かな？と心配したけど、みんな熱心で、楽しそうに作業していたから良かった。こっちも楽しかったよ」と言います。援農隊のみなさんも口をそろえて「元氣な女性ばかりだったね」と言っておられました。

今回、援農隊の一員(?)として参



頑張ってくれた地元の「援農隊」の方たちと「ちゃつきり娘」さんたちです